

## 満蒙開拓当時の建物が水戸市地域文化財に認定されました

茨城県水戸市の「地域文化財制度」により、3月22日付けで学園の古い事務棟と講義棟など（他2件）が認定されました。





まんもうかい たくかんぶくねんじょ  
**満蒙開拓幹部訓練所**

Manchu and Mongolia Pioneering Cadre Training Institute

じむとう こうぎとう  
**事務棟・講義棟**

水戸市地域文化財 建造物  
Mito City Local Cultural Property: buildings  
令和4年3月22日認定  
Designated on March 22, 2022

---

満蒙開拓幹部訓練所は、昭和14(1939)年2月1日、(財)満州移住協会によって、鹿沼村中台の地に開設された、満蒙開拓青少年義勇軍や満蒙開拓団の幹部養成機関である。敷地面積は107.7ヘクタール、建物棟数は105棟という大規模なものであった。

昭和17(1942)年12月1日には訓練所と併設して、満蒙開拓指導員養成所が開設した。両施設は、満蒙開拓青少年義勇軍内原訓練所長の加藤完治が所長を兼務し、満蒙開拓をリードする人材の養成が推進された。

昭和20(1945)年8月15日の終戦まで、延べ4,400人を超える人々が、この地で農学や満州政策の理念など、幅広い知識や技術を学んだ。

事務棟・講義棟は、訓練所のシンボルであった大講堂の両脇に建てられた建物である。規模、外観はほぼ同じで、明治以降の学校建築の形式を踏襲している。一方、中央通路上部に換気の為と思われる小屋根を設けている点は珍しい。

国内において、満蒙開拓関係の現存建造物は数少ない。こうした中、事務棟・講義棟は、日本の対満州政策や、アジア・太平洋戦争下の農業政策の様相を後世に伝える貴重な文化財である。

In 1939, this building was constructed as part of the Manchuria and Mongolia Pioneering Cadre Training Institute to provide training for Manchu and Mongolia Pioneering cadres. More than 4,400 people had learned agricultural science and Manchurian philosophy here by the end of the Asian-Pacific War in 1945.

This heritage is a valuable cultural asset that will be passed on to future generations about Japan's policy toward Manchuria and its agricultural policy during the Asia-Pacific War.





**建物概要(事務棟・講義棟共通)**

構造	木造平屋建て、平入り
桁行	17間(31.9m)
梁間	3間(7.2m)
外壁	腰下：漆喰壁 中間部：引違いガラス戸 上部：漆喰小壁 ※一部板張り壁
屋根	切妻造、棧瓦葺
建立年月	昭和14(1939)年11月

**写真解説**

上：事務棟  
中：講義棟  
下：当時の様子  
写真左から事務棟・大講堂(現存せず)・講義棟

水戸市教育委員会  
Mito City Board of Education